（別記様式第３号）

**普及活動検討会実施報告書**

 　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 大河原農業改良普及センター

実施月日：令和５年９月１４日

実施場所：角田市

**１　検討内容** 　　　 　**２　検討委員の構成** （単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| No | 検　討　項　目 |  | 区　分 | 人数 | 区　分 | 人数 |
| １ | 現地視察　プロジェクト課題No.3　　　　　角田市内課題対象者管理果樹園検討会　①令和５年度普及指導計画の概要について ②プロジェクト課題の取組み状況について プロジェクト課題No.3 　　　 　「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」　プロジェクト課題No.4 　　 　 ｢仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による生産拡大｣③総合検討  | 先進的な農業者 | ２ | 生　活　者 | １ |
| 若手･女性農業者 |  | 学識経験者 | １ |
| 市　町　村 | １ | マスコミ |  |
| 農業関係団体 | １ | 民間企業 |  |

**３　委員の評価と普及センターとしての対応方向**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 検討項目 | 評価値平均値 | 評価結果（コメント，評価表の要約） | 普及センターとしての対応方向 |
| 普及計画について | 4.2 | ・「経営体の支援」、「地域づくり」については、粘り強く取り組んでいただきたい。・積極的に先端技術の推進・普及、多様化する需要の変化などについて、情報収集に努め、「みやぎ」が全国でもより大きな評価をもらえるような産品や農法につながるよう、指導を行っていただきたい。・復旧・復興に向けた支援についてはメリハリがあってもよいのではないかと思われる。 | ・「経営体の支援」、「地域づくり」については、当センターの普及指導方針において重点活動項目に掲げており、引き続き取り組みを進めてまいります。・先端技術の推進・普及を図っていくため、日頃より各種情報収集に努めると共に、関係機関等と連携し、現地指導に取り組んでまいります。・対象地域の早期の復旧・復興に向け、地域や経営体の状況に合わせた支援に取り組んでまいります。 |
| 検討項目（プロジェクト課題No.3）「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」について | 4.3 | ・若手農家の育成、支援に当たっては、相談相手の確保も重要である。ネットワークの構築は共同活動・情報共有の土台づくりに有効な手段であり、今後も幅広く声掛けしてほしい。・今回の検討会を機に今後、JAとしても訪問活動を通じ情報の提供・仲間づくりを関係部署と協議し支援していきたいと考えている。・今後は参加している若手果樹生産者が主体的に活動できるよう促す事も必要であると思う。・このネットワークが、就農希望者の研修先として活動していけるグループになるよう、是非育てていって欲しい。 | ・若手果樹生産者の育成・支援については、今後も幅広く声がけし、対象者の輪が広がるよう留意して活動してまいります。・関係機関・団体の皆さまには、今後とも更なるご協力・連携をお願いします。・今後は若手果樹生産者による主体的な活動につながるよう、留意して活動してまいります。・将来的に就農希望者の受入れもできるようなグループとなるよう、支援してまいります。 |
| 検討項目（プロジェクト課題No.4）「仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による生産拡大」について | 3.7 | ・新技術の普及や栽培面積及び生産者の増加に向けては様々な課題があり、更なる検討が必要と思われる。・グリーンな栽培体系への取り組みは評価できる。今後、一般消費者向けにも情報発信していってはどうか。 | ・ご指摘のあった各課題や問題点を更に洗い出し、解決に向けて活動してまいります。なお、今後、成果についてはとりまとめ、マニュアルを作成する予定です。・関係機関や団体と連携し、更なるPRに努めてまいります。 |
| その他 |  | ・仙南地域のみならず県内、県外の農業者ネットワークに関する情報の収集、提供について取り組みが必要と思われる。・担い手不足が大きな課題であると思うが、発信する場所を多様に展開することも効果があると思う。今までの発想から抜け出すことが大切。今後の活動に期待している。・今後は気候変動による対策を考えていく必要があると感じた。 | ・４Ｈクラブ、農業士会では、これまでも県外も含め他の地域との交流活動を行っておりますので、今後も交流活動の取り組みを支援してまいります。・これまでもホームページ、ＳＮＳの活用や、「普及センターだより」等の定期刊行物の発行及び配布等により情報発信に努めてまいりましたが、関係機関・団体と更に連携し様々な手段、場所での情報発信についても検討してまいります。・近年の状況を踏まえながら、県試験研究機関、県農業振興課と連携し、気候変動に対応した情報発信等に努めてまいります。 |
|

 ※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する